

***キリスト教学特殊講義 1 * * * * *** S. Ashina

第1講: 聖書 - キリスト教思想の源流 -

第2講: 古代 - キリスト教教理の形成過程 -

第3講: 中世・宗教改革 - 教理の展開過程 -

1. 啓示神学と自然神学 2. 罪と sacrament 3. 宗教改革の意義

1: 啓示神学と自然神学

1 - 1: スコラ的な文化総合

階層的秩序: 自然と超自然の区別と調和

自然 - 恩恵・超自然(文化 - キリスト教会)

自然 - 啓示: 二つの書物

聖書と自然

1 - 2: 自然神学の展開

1. 創造論 世界の合理性、人間と世界の合理性の合致

2. 前提: 古代ギリシャの哲学的神学

旧約聖書の知恵思想

ヘレニズム的ユダヤ教: 「無からの創造」の背景

3. 神の存在論証

(1) 存在論的類型: アンセルムス、デカルト、ヘーゲル

無限者の観念の存在から、神の現実存在を論証する。

(2) 宇宙論的類型: トマス(5つの道)、ニュートン

因果律、目的論

1 - 3: 自然神学の役割

4. 無神論者の説得? 証明?

5. 無神論反駁: 17 - 19世紀の自然神学、デザイン神学

1 - 4: 自然神学の意義の再発見

6. 証明・論証としての意味とは別に

(1) 信仰自体の合理性として、神学の可能性

バルト: 神学独自の論理性、信仰から知解への運動

(2) 人間存在における神の問いの具体的表現として

(3) コミュニケーション合理性の基盤として

<文献>

1. リンダーグ/ナンバーズ 『神の自然』(みすず書房)

2. マーガレット・ジェイコブ 『ニュートン主義者とイギリス革命』(学術書房)

3. パネンベルク 『自然と神 自然神学に向けて』(教文館)

4. トーマス・F・トランス 『科学としての神学の基礎』(教文館)

5. デイヴィス 『宇宙はなぜあるのか』(岩波書店)